

平成28年 7月 3日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者 ※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照

(ふりがな) おがだ としひこ

氏名 岡田 敏彦

(郵便番号) 〒 [REDACTED]

住所 [REDACTED]

職名 道場宿町自治会 会長

年令 62歳

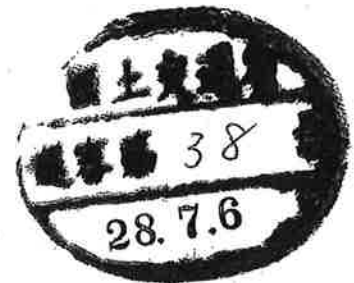
3 事案に対する賛否

賛成

4 利害関係を説明する事項 ※利害関係人のみ記入 (注意事項③参照)

5 自宅、勤務先等の連絡先電話番号

(自宅、勤務先) Tel [REDACTED] Fax [REDACTED] E-Mail [REDACTED]



私は、鬼怒川、柳田橋の東に位置する道場宿町自治会長の岡田敏彦です。宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社の”軌道運送高度化実施計画”に賛成の立場から、地域住民としてお願いしたいことを公述する機会を賜りましたことに「感謝」を申し上げます。

資料1「軌道運送高度化実施計画について 1.策定の目的、2.策定者」について申し上げることは御座いません。

1. 別紙1「軌道運送高度化実施計画(案)について、2軌道運送高度化事業の内容、(1)軌道施設の整備(新設)と別紙2の軌道運送高度化計画(案)5.の軌道運送高度化事業の効果」のルートについて申し上げます。

輸送需要が最も多い、宇都宮市内から清原工業団地、本田技術研究所などへ、それぞれ1万人の通勤者を輸送の最大需要者とするならば、現在の宇都宮駅～清原工業団地～ゆいの杜～芳賀工業団地、ホンダまでと言う一筆書きルートから、清原工業団地と芳賀方面へ途中分岐するルートに変更して所要時間と距離の短縮を検討すべきではないかと思えます。ここから芳賀町中心部へ伸ばす意見も有りますのでご検討下さい。

2. 別紙2「軌道運送高度化計画(案)6.の関連事業」について申し上げます。

現計画路線では、ゆいの杜を除いて、地域住民が利用しやすい位置に電停がありません。

①清原工業団地中心部はトランジットセンターまで、ではなく南側の工場通勤者と清原地区南部住民へ配慮し、工業団地中心から約1km南へ延して工業団地南部と栃木県農大と海星女子高付近にも電停をご検討下さい。この国道123号線沿い電停は氷室町と上籠谷町、鑑山町の東地区にも近く、計画されている地域バスの乗り換えも便利ではないかと考えます。

②現計画路線の下竹下、国道408号線の交点付近に電停がありませんが、必要です。

路線と国道408号線の交点は、付近の竹下団地から300m、408号線沿い南の鑑山町から1km、北は道場宿町から408号線で2kmです。半径2km以内に約4500人が住んでいますから、将来計画されるであろう地域バスの乗り換え施設としても整備をお願いしたいと思います。

③宇都宮花火大会や鬼怒川河川敷のスポーツ施設に配慮した電停がありません。現計画路線の渡河地点に簡易電停を設け休日に数百人が利用する運動公園やサイクリングコース、数万人が参加する花火大会、バルーン大会、水防訓練など催事の際に乗降できるよう提案します。

3. 現計画路線では清原地内のトランジットセンターが清原工業団地中心の市民センター付近にだけ計画されております。しかし住宅地や生活幹線道路から離れており、地域住民にはアクセスが不便ではないと考えます。

さらに朝晩は工場へ通勤する車が集中し、同時に清原工業団地のトランジットセンターへ向かう車、地域バスが加わるとさらに混雑すると考えられます。

清原台の地域バス「さきがけ号」などと LRT がドアツードアで乗り換えできるトランジットセンターがありません。現在計画路線の最寄り電停は「ゆいの杜東交差点」の中央分離帯です。ここへ 1 万人ちかくが住む清原台と光が丘団地からの地域バス「さきがけ号」が次々と到着して乗り換えできるとは考えられません。さらに将来計画されると思われる板戸町満美穴町刈沼町道場宿町を回るバスもここへ到着し、さらに送迎の自家用車では混乱します。また自転車バイクは駐輪施設も必要です。

将来はパーソナルモビリティも実用化が視野に入っており、LRT の計画段階から配慮してはいかがでしょうか。

トランジットセンターは「待たせない、歩かせない、濡らさない」をご検討下さい。

(お願い) ヨーロッパのような運輸連合と信用乗車システムを実現できれば、近所を廻る小型の地域バスと LRT をシームレスな生活の足として利用できるので、みんなが年間乗車券を購入し家族で利用したいと思っています。

そのために、是非、清原と芳賀地区で毎日世界に向けて働く人たちと私たち住民とを支援し、宇都宮芳賀地域が世界へ向けてさらに発展するように、日常的に利用しやすい LRT の早期開通をお願いします。

次に、上記のような LRT の早期実現を願う地域住民として、経過と賛成理由を述べさせていただきます。

(渋滞) 道場宿町の過去 40 年を顧ると、東に現在の清原台団地が造成され、清原と芳賀二つの大規模工業団地が造成されて多数の工場が建設され、さらにホンダの進出によりたくさんの方が働くようになりました。宇都宮市内から通勤する車と仕事に通う事業者の車とバス、さらに納品や製品輸送のトラックなどが町内を通行するようになり、年々交通渋滞が深刻になりました。

渋滞は 40 年前から予測され、新公共交通システム建設は団地や工場誘致条件として、増山市長時代に企業と働く人たちと住民への政治公約でした。ところがバブル崩壊もあり、過去 30 年以上新公共交通システムが実現しないため、毎朝 6:30 から 9:30 頃と夕方 4:30 ~ 7:30 頃まで渋滞は続き、私たちの生活に深

刻な影響をもたらしています。

以前、宇都宮市の調査によれば、柳田橋の1日の通行台数は43,000台、宇都宮市中心部の大通りでさえ3車線に1日33,000台です。朝晩、2車線に43,000台が集中すると、地元民の車は毎回渋滞に割り込まなければならず、夕方近所へ買い物に行くにも、日中と夜間は片道5分なのに、朝晩は30分以上かかります。農作業に向かう軽トラックは割り込みを拒否され、トラクターやコンバインなどは道路を横断することすら困難です。

また、道場宿町を車は1日に東西43,000台、南北は19,000台も通るのに、唯一の交通機関、JRバスが片道3台では実用にはなりません、公共交通的には陸の孤島です。市中心部に通学する高校生などは雨の日も冬も炎天下も10Km以上の自転車通学を余儀なくされ、荒れた天気などの際、子弟をバス発着の宇都宮駅まで自家用車で送り届けるには、行きに20分帰りは渋滞で1時間以上かかり、夕方は再び渋滞のなかを迎えに行くので、大きな負担になっています。

町内で事件や事故が起きても管轄の宇都宮東警察署から道場宿町までパトカーが緊急走行しても30分以上かかるそうで、治安と生活安全に支障が出ています。

朝晩には、通勤路の隘路となる柳田橋へ向かう車は国道や県道と交差点を避け農道、生活道路と私道にまで入って軒下をとばして行きます。渋滞した道路は老人や子どもには横断も困難です。小学校へ通う児童は家や塀にへばりつくように通学し、児童を守るために地域総出で交通安全指導をしています。

このような交通渋滞によって、車を利用する通勤者と事業者、住民は毎日大きな被害と損害を被っています。1万人以上の通勤者は仕事する前から毎朝の通勤で疲れ生産性もダウンしてしまいます。渋滞のトラックからは多量の排ガスが漂ってきます。渋滞の車からは荒んだ声や無茶な運転を見受けます。

この渋滞は社会的に莫大な経済と人的資質の損失で、LRTの建設運行費よりも大きいと思います。

(交通福祉) 私たちの道場宿町はおよそ175世帯で後期高齢者が90人ほど生活しています。バスは1日片道3本、とても老人子どもの生活の役には立ちません。運賃も市中心街までまで往復1000円以上で、中心市街地の医療機関や文化商業施設、行政機関などへ自由に通うことも出来ず、家族の運転する自家用車に2往復送迎か、付き添いを頼らなければなりません。もしくは交通事故加害者になる危険を顧みず、無理に車の運転を続けなければなりません。

清原台では10年前から地域バスを運行していますが、基幹交通となる公共交通機関との接続が整備されていないため、通勤通学など地域住民の期待に応えられていません。

(産業) 道場宿町に隣接する清原工業団地は工業生産高が年間1兆3000億円、

従業員数約 10,000 人、芳賀町のホンダは 1 兆円近い開発費と関連会社を含め 15,000 人が働き、清原だけで 27,000 人の住人、合わせて毎日この地域で 5 万人以上が活動して宇都宮の経済を支えているのに、公共交通機関がこれほど貧弱では人間が生活し生産する社会として「欠陥がある」と言えないでしょうか。

(反対運動)ところが、宇都宮東部地区へ新交通システム LRT 導入について、因習文化による偏見とも見受けられますが、清原と芳賀地域における経済や交通渋滞の現状を見ない無理解による、根拠の無い反対意見もあり、残念なことです。LRT 以外の解決策があれば是非お聞きしたいと思います。

(実現)このような状況を打開しようと、清原地区では 20 年以上の公共交通システム研究と新交通 LRT 誘致運動をへて、やっと実現の見通しが出来ました。

実現すれば通勤だけの車は LRT へ移行して大幅に減少し、道場宿町の深刻な渋滞は緩和され、生活環境は大きく改善されると思います。さらに LRT と連携した地域バスが走れば、生活の車依存を少なくできます。

(文化)市中心街で行われる宮まつりなど、文化催事への参加も、駐車場さがしの困難から躊躇していました、LRT 開通後は市中心街の皆様のように積極的な参加が可能になります。

過度な車社会による、人と人のコミュニケーション不足が日常的な伝統文化の停滞を招いて居ると思います。LRT など次世代交通システムによって、人と人のコミュニケーションを取り戻し、あらたな地域文化を起こしたいと思います。

(おわりに)ヨーロッパとアメリカ、アジア各国、日本国内各地で路面電車は LRT へ発展しています、LRT 交通まちづくりが社会環境と文化を大きく向上させている成功事例を見れば、芳賀清原で働く人々と私たち住民とにとって、新交通システム LRT 開通へ期待の大きさはご理解頂けると思います。

有り難うございました。

以上